

授業科目名	コミュニケーション演習	担当教員	平田 オリザ
必修の区分	必修		杉山 至
単位数	3単位		平田 知之
授業の方法	演習		石井 路子
開講年次	1年第1・3クォーター		山内 健司
講義内容	<p>本講座は、メタワークショップと呼ばれる手法を用いて、実際に身体を動かす演劇やダンスのワークショップと、パフォーマンスアーツの基礎的な理論に関する講義を交互に行い、大学での学び、特に本学での学びに必要とされるコミュニケーション能力を、実践を通じて身につけてもらうことを主眼としている。</p> <p>また、この講座は、本学の学びの根幹をなすことから、受講した全学生が、観光、マネジメント、アートマネジメント、演劇・ダンスの全方向に広い関心と好奇心を持つことを目標とし、各分野が横断的に関連していることを体得させることを目的としている。</p> <p>講義は、複数教員のオムニバスとし、授業によっては複数の教員で運営される。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・受講した学生は、演劇やダンスを通じて、言語コミュニケーションと身体コミュニケーションの双方について基礎的な能力を身につける。 ・受講した学生は、パフォーマンスアーツ、観光、マネジメント、アートマネジメントの連関について強い好奇心を持つようになる。 ・受講した学生は、グループワークの基礎を体得し、四年間のアクティブラーニングについて積極的な態度や役割分担を身につける。 ・社会における芸術の役割を理解する。 		
授業計画	<p>第1クォーター</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演劇コミュニケーションゲーム (平田オリザ) 簡単なコミュニケーションゲームを通じて、集団でイメージを共有する困難と喜びを理解する。 2. グループ創作1 (平田オリザ) 「場所」「背景」「問題」といった演劇を構成する概念を解説し、グループ創作に向けての課題を課す。 3. 身体ワークショップ 1 (石井) ダンスやインプロビゼーションを通じて、身体表現の基礎を学ぶ 4. 演劇教育について (平田知之) テキストを使ったワークショップを通じて、なぜ、演劇が現在の教育に必要なのかを考える。 5. コンテキストのすりあわせ (平田オリザ) テキストを使ったワークショップを通じて、異なる価値観や文化的な背景を持った人々と同コミュニケーションをとっていくか、「コンテキスト」という言葉をキーワードにグループワークを行う。 		

6. グループ創作2 (平田オリザ)
課題の提出を受けて、グループを編成し登場人物を考える。
7. 身体ワークショップ 2 (石井)
ダンスやインプロビゼーションを通じて、グループワークを通じて創造性を育む。
8. 相手の想像力を意識する (平田オリザ)
テキストを使ったワークショップを通じて、相手の想像力を意識するプレゼン方法などを学ぶ。
9. グループ創作3 (平田オリザ)
課題に沿って、プロットを考える。
10. 物語の構造 (平田オリザ)
テキストを使ったワークショップを通じて、物語の構造などを学ぶ。
- 11,12 グループ創作 4,5 (平田オリザ)
学年合同発表会
・物や形とのコミュニケーションワークショップ (杉山 至)

第3クォーター

1. 戯曲に基づいた演技 (平田オリザ)
実際の戯曲を使って演技を行ってみる。
2. 身体ワークショップ 3 (石井)
ダンスやインプロビゼーションを通じて、より高度な身体感覚を身につける。
3. 演劇マネジメントの基礎 1 (平田オリザ)
グループワークを通じてパフォーマンスアーツの制作を実際にシミュレーションしてみる。
4. 俳優の仕事を理解する 1 (山内)
テキストを使って、俳優が実際に行っている思考をシミュレーションする。
5. グループ創作 6 (平田オリザ)
課題にあった戯曲を探しグループを編成する。
6. グループワークの基礎 (平田オリザ)
テキストを使ったワークショップを通じて、グループワークの基礎を学ぶ。
7. 空間と身体や知覚と記憶におけるコミュニケーションワークショップ (杉山)
8. 身体ワークショップ 4 (石井)
ダンスやインプロビゼーションを通じて、より高度な集団による身体感覚を身につけ。
9. グループ創作 7 (平田オリザ)
課題戯曲への取り組みについて、役割分担や発表の形式を決める。
10. ワークショップを構想する (平田オリザ)

	<p>これまでの授業を踏まえ、自らワークショップゲームを企画、構想する。</p> <p>11.演劇マネジメントの基礎 2 (平田オリザ) グループワークを通じてパフォーマンスアーツの広報を実際にシミュレーションしてみる。</p> <p>12.俳優の仕事を理解する 2 (山内) テキストを使って、俳優が実際に行っている思考をシミュレーションし、グループワークで実践する。</p> <p>13.演劇教育を体験する (平田知之) 実際に、小中学校で使われているテキストを使用し、その課題などを検討する。</p> <p>14.グループ創作 8 (平田オリザ) 課題戯曲に取り組み発表の準備を進める</p> <p>15.身体ワークショップ 5 (石井) ダンスやインプロビゼーションを通じて、より高度な集団による創作を経験する。</p> <p>16.演劇マネジメントの基礎 3 (平田オリザ) グループワークを通じてパフォーマンスアーツの企画立案を実際にシミュレーションしてみる。</p> <p>17.俳優の仕事を理解する 3 (山内) テキストを使って、俳優が実際に行っている思考をシミュレーションし、グループワークでの創作を体験する。</p> <p>18.グループ創作 9 (平田オリザ) 課題戯曲に取り組み発表の準備を進める</p> <p>19.身体ワークショップ 6 (石井) ダンスやインプロビゼーションの簡単な発表。</p> <p>20.演劇マネジメントの基礎 4 (平田オリザ) グループワークを通じてパフォーマンスアーツの企画立案のプレゼン。</p> <p>21.俳優の仕事を理解する 4 (山内) テキストを使った発表。</p> <p>22.グループ創作 10 (平田オリザ) 課題戯曲に取り組み発表の準備を進める</p> <p>23.24. 合同発表会 (全員)</p>
<p>事前・事後 学習</p>	<p>各回、個人、グループ対象の課題が出されるので、次回の講義までに準備をしてくること。</p> <p>グループワークが多く取り入れられるので、事前事後に時間を調整し課題に取り組むこと。</p> <p>第1クォーター、第3クォーターに学習した内容を、次のクォーターで実践すること</p>

テキスト	授業ごとに配布する
参考文献	『演劇入門』平田オリザ（講談社現代新書 1997 年） 『わかりあえないことから』平田オリザ（講談社現代新書 2013 年）
成績評価の基準	授業への貢献度・発言 30% 課題への取り組み 30% レポート 40%
履修上の注意 履修要件	演劇。ダンスの経験はまったく必要ない 動きやすい格好で参加すること 身体的な障害がある場合は配慮するので事前に連絡をすること
実践的教育	該当しない。
備考欄	